

会 議 録

会議の名称	豊中市特別職報酬等審議会		
開催日時	令和3年(2021年)11月4日(木) 13時00分～15時00分		
開催場所	市役所第一庁舎4階大会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	総務部人事課	傍聴者数	0人
公開しなかった理由	—		
出席者	委員	宮本又郎、吉村直樹、伏田澄子、田口雅枝、久山信子、重長寿典、相原洋、阿部昌樹、武林晶子(計9名)	
	事務局	(説明員) 総務部長 藪床和弘 総務部次長兼人材戦略長 吉村光博 総務部人事課長 倉田仁一 総務部職員課長 山内秀昭 財務部財政課長 長尾元明 市議会事務局長 明石治美 市議会事務局総務課長 吉岡生香	
	その他	総務部人事課 中村美保、岩下良輔、竹中匡人、福島知久、丹野堅次	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別職の報酬について 2. 特別職等の期末手当について 3. 市長および副市長の退職手当について 4. 政務活動費について 5. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

審議等の概要（主な発言要旨）

1. 総務部長の挨拶

審議会の開催に先立ち、総務部長から次のような挨拶があった。

（要旨）

一ヶ月前に新型コロナウイルス感染症に関わる緊急事態宣言が解除されてから、この間に感染者数は激減しその状態を維持できていますが、基礎自治体としては長引く自粛生活に伴う市民の方、地域経済に対する支援という意味でこれからがコロナ対策の本番であると認識しています。

現在の特別職の報酬等の額につきましては、新型コロナウイルス感染症の社会的影響も踏まえ、市長の政治的判断により令和2年5月1日から令和4年4月30日までの間、市長については月額20%、副市長については月額10%の自主減額を行っています。また、市議会議員については、5%の自主減額を行っています。

特別職の報酬等につきまして、本年度は諮問はいたしておりませんが、本日は、他市の状況や本市の財政状況のほか、政務活動費の収支報告などにつきまして、事務局からご説明させていただき、ご意見を伺えればと考えております。

2.（案件1）特別職の報酬等について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の特別職報酬等の減額状況や大阪府内や近隣都市・類似都市の報酬等の動向、議会の活動状況などについて説明を行った。

続いて資料「豊中市財政関係資料」に基づき、本市の財政状況について説明を行った。

（質疑・意見交換）

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：コロナ対策関係費用について、令和2年度は国の交付金等があり市の負担は抑えられたようだが、令和3年度の見込みはどうか。また、定額給付金のような国の施策に加えて、市が独自に負担するようなコロナ対策の財源はあるのか。

事務局：令和2年度については、予想していたほどの税収減はなく、令和3年度も同様と推測している。高所得者層においてはコロナ感染症による打撃はあまり感じられないが、低所得者層においてはそうではなく今後、社会保障関係経費がより必要になると思われる。

市独自のコロナ対策の財源については、国の地域創生臨時交付金により大部分を賄うことができた。交付金以上の経済効果規模の対策を行えた。

委員：市税収入の大きな減収はなかったとのことだが、他市と比較しての状況はどうか。

事務局：収入では地方消費税交付金の増が大きく、これは全国的な傾向である。当市の市税は個人市民税の割合が多く所得の減が予想したほどなかったが、一方で法人市民税の割合が多い自治体の場合については影響が大きかったのではないかと。譲与税については、航空機燃料譲与税が大幅に減少したが、減収補てん債の発

行で補うことができた。減収補てん債については地方交付税の特例措置があるので財政面での影響を抑えることができたと考えている。

委員：将来への備えとして、市としてどれくらいの規模を想定しているのか伺いたい。

事務局：年度途中での資金繰りなどに使用している財政調整基金の令和2年度末残高が約84億円ある。財政調整基金については令和2年度から令和5年度の中期財政計画において、最低限50億円を維持することとしておりその数値は満たしている。

この50億円というのは、平成30年の大阪北部地震や台風21号のような災害が年2回発生したとしても対応できる金額である。

これから年度後半に向けて積み増していくかどうかの判断をしていきたいと考えている。

委員：大阪北部地震やコロナ対策で豊中市財政状況のひっ迫を不安に思っていたが、50億円の基金があると聞いて安心した。今後も市民の安心安全な生活のための取り組みをお願いしたい。

事務局：コロナ対策については、今年度も補正予算を編成している。引き続き担当部署で協力しタイミングを失さないように施策を行っていききたい。

3. (案件2) 特別職の期末手当について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の期末手当の状況、大阪府内や近隣都市・類似都市の期末手当の動向などについて説明を行った。

(質疑・意見交換)

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：特別職についても一般職同様に引き下げということか。

事務局：お見込みのとおり。連動して引き下げとなる。

委員：以前、この審議会から答申しており、今回は諮問となっていないということか。

事務局：お見込みのとおりである。

4. (案件3) 市長及び副市長の退職手当について

事務局から資料「豊中市特別職報酬等審議会関係資料」に基づき、豊中市の退職手当の状況、大阪府内や近隣都市・類似都市の退職手当の動向などについて説明を行った。

(質疑・意見交換)

質疑・意見交換なし

5. (案件4) 政務活動費について

事務局から資料「政務活動費関係資料」に基づき、豊中市の政務活動費の状況、大阪府内や近隣都市・類似都市の政務活動費の動向などについて説明を行った。

(質疑・意見交換)

その後の質疑・意見交換では、次のような発言があった。

委員：コロナの影響で、大きな集会の開催や先進市視察の減少など議員活動内容に変化があったと思うが、政務活動費の使い方等を含めて具体的にどのような変化があったのか。

事務局：おっしゃるとおり令和元年度と令和2年度の政務活動費の使途はコロナ以前と比較すると変化は出てきている。特に調査研究費、研修費の執行率に変化が出てきている認識である。他市の視察についてはコロナ対策として、訪問の代替としてオンライン視察や少人数で宿泊を伴わない近隣市への日帰り視察等で対応している部分もある。令和3年度の執行率についてはまだ様子見という部分もあるので結果的に例年並みになる可能性もある。視察の在り方や政務活動費の在り方については引き続き検討していきたい。

委員：政務活動費の金額の再検討までは至っていないということか。

事務局：そう認識している。

委員：要請陳情費と会議費については全会派0円での決算となっているが、この項目は年々減少しているものなのか。それとも今後なくなっていくものとして検討していくのか。

事務局：令和2年度決算は0円、令和元年度も840円と少額ではあるが執行がある。項目として不要とは言えず、議員から他費目への組替えなど見直す意見があれば市議会の中で検討されるものとする。

委員：市会議員の陳情というのはどこに陳情をするのか。

事務局：議員の場合は陳情を受けることが多いので、想定しているのは党本部等ではないかと思われる。

委員：昨年度の審議会で議会のICT化について意見があったかと思うが、タブレットの活用等を含めて議会でどれくらいICT化が進んでいるのか伺いたい。

事務局：昨年度、議員一人一台のタブレットを市より支給し活用している。議案書もタブレットで見られるようになり、ペーパーレス化に貢献している。またグループウェアとして「LINE WORKS」を導入し、事務局や理事者からのお知らせもメールや電話等と比較すると速やかに伝達できるため、双方の負担軽減にもなっている。

委員：議会のICT化の進捗に伴い政務活動にも変化が出てくると思われるが、条例等の改正は必要ないのか。政務活動費の使用目的の中にICT化関係のものを含めていくのか。

事務局：タブレットに関しては、本体・通信費とも公費で負担している。政務活動費におけるICT関係の経費の考え方としては、多少の変化があるものと考えている。どこまで政務活動費の中で見ていくかについては課題として認識しており、他市状況も踏まえながら検討していきたい。

委員：現状は、ハード的なものについては政務活動費の使用目的には含まれていないのか。

事務局：控室外で使うパソコンやプリンタ等の通信費については、一定額認めている。

6. (案件5) その他について

- 委員：令和3年度はコロナ感染者が増加し、生活困窮者も多くなったと思う。その方たちに、市の施策がきめ細かく届くように望む。
- 事務局：外出控えによる筋力の低下、認知機能の衰えなど、コロナの影響を受けた方々に対し医療的な支えができるよう11月にプロジェクトチームとして、「コロナ健康支援チーム」を立ち上げた。今後も引き続きコロナの影響を受けた方々に対し、支援を継続していく。
- 委員：地域の気力や体力が少しずつ弱まっていると感じる。緊急事態宣言が解除されているいま、地域でできることはできる限りやっと思いこうと思う。
- 事務局：コロナの影響は大きく、地域の横のつながりや社会的支援が薄れてしまった方が多くいる。これを元に戻すには市役所の力だけでは困難で、市民公益活動に取り組んでいる地域の方々の力をお借りしながら、共に協力して支援をしていきたいと考えている。令和4年度の予算については、コロナの影響を受けた方の支援に向けた予算になってくるかと思うので引き続きご支援・ご協力をお願いできればと考えている。
- 委員：国や大阪府と比較すると豊中市の財政状況は、あまりコロナの影響を受けていないように見受けられた。その分市民の市に対する期待は大きくなってきているのではないか。
- 委員：これまでいくつかの市の審議会に出席し、色々なお話を聞かせて頂いたが、そのような場ではなにかをするにあたって予算の明示がない、予算がなくてその施策を実現できるのかといったような意見が多くあり、ある施策を実現するためにどこの予算からどれくらい使うのかということが見えてこない部分がある。様々な施策を行うにあたって審議会の中でそのような部分についても説明があればと思う。
- 事務局：おっしゃるとおり審議会で議論をしていく中では、具体的な経費の提示等があればより議論が深まっていく部分はあると考えている。
一方で各審議会はそれぞれの所管課で持っていることもあり、中々市全体としての視点ではなく、部分的な視点での議論になってしまうところもある。
今いただいたご意見を踏まえて各審議会でも市全体としての視点も踏まえた議論をしていけるように進めていきたい。

(審議会終了)